

妻ヶ丘中学校だより

令和7年1月8日 校長 深江 祐史

三学期が始まりました

新年あけましておめでとうございます。年末年始は晴天が続き、とても穏やかな気持ちで2025年のスタートをきることができました。昨年の元旦に起こったことを振り返ると、ありがたいと思わずいられませんでした。しかし、被災地では、現在も苦しんでおられる方々がおられます。1日も早い復興と今年一年大きな事故や災害が起こらないことを祈りたいと思います。

さて、私の仕事始めは、1月4日にMJホールで行われた「妻ヶ丘地区はたちのつどい」でした。とても華やかで笑顔あふれる式典でした。アトラクションのドラム演奏（演奏者は妻ヶ丘中OBの長友さん）も迫力があって、さすが多才な妻ヶ丘地区だなと思いました。また、代表者のあいさつから、二十歳の皆さんは、中3の受験前に突然の臨時休校を経験した世代であることを思い出し、時の流れを感じるとともにコロナ禍の中、学生生活を送ってこられた方々へ頭の下がる思いでした。

しかし、若者のエネルギーは素晴らしく、その姿に希望を感じずにいられませんでした。予測困難な世の中を若い力で、自分の人生を切り開いていってほしいと思いました。

さて、昨年末からインフルエンザ流行の報道を耳にします。本校では、現在は、まだ落ち着いた状況ですが、特に受験を控えた3年生のご家庭では、心配と緊張の三学期になると思います。不安なことがありましたら、どうぞ遠慮なく学級担任へご相談ください。

なお、学校では、適切なマスク着用、こまめな手指消毒、定期的な換気等、感染予防の指導を行ってまいります。体調不良時の連絡など、ご家庭のご理解とご協力どうぞよろしくお願いいたします。

始業式が行われました

始業式では、4名の生徒に「三学期の抱負」を述べてもらいました。

1年代表の西友歩さんは、二学期までを振り返り、①業間の過ごし方を改めたい②責任感をもって活動できていたのでそれを継続していきたい③生活面については「正しい判断をして、正しい行動をする」ことを目標に、3ヶ月後に入学してくる後輩たちを迎えたいとのことでした。

2年代表の松本絆愛さん（残念ながら松本さんは当日欠席だったため、同じクラスの岩元彩花さんが代読してくれました）は、①3年になるという自覚を持って授業に取り組む②メリハリをつけた生活をする。特に中央委員会としての立場を意識する③休み時間の過ごし方のルールを守ることの3つを挙げました。3年生への0学期として学年が一致団結できるよう頑張りたいとのことでした。

3年代表の大谷結衣子さんは、①入試に向け勉強を頑張る。苦手教科についても逃げずに過去問を数多く解いて少しでも力を付ける②寒さに負けない体づくりに努める。冬休みの生活を振り返

り、改めて気がついた生活リズムの大切さを意識する。そして受験日は個人によって違うことを理解し、最後の 1 人が力を発揮できるよう相手意識をもって学年全員で雰囲気作りに努めたいと述べました。学年全員で素晴らしいエンディングを迎えたいとの強い想いが伝わってきました。

生徒会代表の 大橋 ゆい さんは、受験に挑む3年生に対してエールを送るとともに 1、2 年生も雰囲気作りに努めることを約束しました。また、これから行われる生徒会主催の行事について、様々な予期せぬ状況にあったとしても乗り切れるよう「用意周到」との言葉を挙げました。伝統の妻ヶ丘中生徒会です。良いものを引き継いで更に今年のメンバーらしい新しい取組に期待しています。

4人は緊張の表情でしたが、しっかり自分の考えを発表しました。後は、それをいかに行動にうつせるかです。自分への挑戦ですね。頑張ってください。

その後、私からは、全校生徒に対して以下の話をさせていただきました。

みなさんは、この人をごぞんじでしょうか？知りませんよね、でもこれは知っていますよね？

そうです、熊本県のゆるキャラ「くまモン」です。「くまモン」は、ゆるキャラの中では断トツの人気を誇っているようで、その経済効果は、1200億円とされています。現在、熊本県庁には「くまモン課」という課まであるそうです。

その1200億円の経済効果を生んだプロジェクトですが、当時の熊本県知事であった蒲島知事が新年の始めに県庁職員に話した一言が始まりだったそうです。

それは、「皿を割れ!」という言葉です。

皆さんは、家のお手伝いで、お皿を洗ったことがありますか？その中で、失敗して皿を割った経験のある人はいますか。皿を割ると本当に悲しい気持ちになりますよね。割れた食器のかけらを拾って集める時、なんとも情けない気持ちになりますよね

でも、蒲島知事は、職員に「皿を割れ!」と言ったそうです。

皿を割るのは、皿を多く洗っている者。皿をたくさん洗うからこそ失敗もする。

逆に、皿を割らない一番の方法は皿を洗わないこと。挑戦しないこと。

皿を割るという失敗を恐れていては何もできない。

割れた皿の周りには山ほどのピカピカになった皿がある。失敗恐るるに足らず。

二学期の終わりの終業式で、校内に展示してある皆さんの美術の作品を紹介しましたが、他にも思わず足がとまってしまう掲示物があります。

3年生の階段の踊り場には、「私が選んだ言葉」が掲示されていて、日めくりカレンダーのように毎日違う言葉が掲示されています。その中で私が一番気に入った言葉は「人生に失敗がないと、人生に失敗する」というものです。これは3年3組の 中村 大翔 さんが選んだ言葉です。選んだ理由に「人生で失敗することは、誰にとっても必要だと思ったから」とあります。

「失敗のない人生 それこそ失敗である」

自分の失敗が、自分にとって必要だったと思うのは、後になってからかもしれません。

新しい年になりました。皿を割ることを恐れずに、多少の失敗は恐れずに ぜひ、たくさんのことに挑戦してください。